

会員数回復に 何が必要か

名誉会長 長谷川 武

平成 19 (2007) 年 11 月横浜エクセルホテル東急で、社団法人神奈川県放射線技師会は 60 周年を迎えて記念式典を行っておりました。この折に、技師会の指導・支援を受けて創立したのが「神奈川県放友会」です。

県技師会の OB を中心とした「社会活動を推進し、放射線技師会を支援するための設立」でした。

ニューズレターの発行及び放談会・見学会・競馬観戦や旅行・文学散歩・講演会・勉強会等の多彩なイベントや放射線に関連する社会啓発に関する冊子の刊行、ホームページの開設、政治活動など、実績のある活動を残しています。これらの活動には神奈川県放射線技師会からの指導支援を受けて実施して来たのに、神奈川県放友会の人気は衣替えした公益社団法人神奈川県放射線技師会からの支持率が低迷し続けており、定年退職する技師会 OB が神奈川県放友会に入会してこない。

どこに問題があるのか？

創立当時は 30 名でスタートし、2 年目で 69 名、8 年目で 146 名、15 周年の頃で 53 名、現在は 51 名である。毎年定年退職する神放技の後輩たちがいるのに、会員数が減り、新規入会者がほとんどいないのです。

安定した組織活動を続けるには会員数の確保が何よりも大切だと思えるので、現状の問題点を自覚し、体制を立て直せるかどうか問われているのではないだろうか。

執行部は入会者促進を進めています。少数先鋭でもよいのではという意見もある。しかし新入会者が少ないため、会員の平均年齢が高齢化しているのが問題ではなからうか。

昨年より中村豊会長に代替わりし、県技師会との交流を一段と深めて頂いている。創立当時の二人三脚の到来を模索していますので、難題に取り組んで頂いている。また、地域住民に対する「放射線の安全・安心の啓発活動」と会員相互の「親睦と情報交換」をも積極的に企画されているので大いに期待したい。

だが、入会促進を図る策としては県技師会執行部と定期的な交流会議開催にも力を入れて頂けたら、より一層の効果が期待できると信じたい。

本会の創立趣旨が理解され最高 146 名を記録してはいるが、この時期までは会費 (1000 円) はなく「神奈川県放友会 Newsletter」の購読料 (500 円) で運営されておりました。また、神奈川県放友会は技師会の OB だけが参加する会であると理解されていた。更には日本放射線技師会が“21 世紀の医療と福祉を考える会”を支援する『日本放射線技師連盟』を組織していたことから、「神奈川県放友会は政治活動を行なう会である」と理解されていたと思う。それは誤りで、「県民医療への貢献のためには放射線技師の社会的評価、地位の向上が必要であり、医師法・診療放射線技師法等の法律改正が必要となるが、多くの団体では政治連盟を作り、政策を法律に実現させるために、国会議員の輩出、議員支援により法律の改定を陳情しているのが現状です。」その支援に徹して来ました。

公益社団法人神奈川県放射線技師会には県議会議員や国会議員の支援活動は、直接は出来ませんので、神奈川県放友会が担っていると理解しています。畦元将吾衆議院議員等の支援で、医療制度改革・公益法人の見直し等、改革が実現しています。

神奈川県放友会は小さなシニア集団ですが、公益法人枠を外した放射線医療に関係する者が誰でも参加できること、および他県にも働きかけるような拡大思考運営を行っているため、OB の方々等にこの活動は理解してもらっているはずで

是非とも長年積み重ねて来た知識力がある若い魅力会員を誘うために、より運営を広報するようなニューズレターや HP 活用が考えられます。

神奈川県放友会には「会員の親睦と地域社会の貢献活動の向上」が期待されますので、より会員増を掲げて、ジュニア OB 等の入会促進に努力すべきだろうと願っています。